

令和4年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立摂陽中学校

令和5年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

《学校教育目標》

- ・学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着をめざす。
 - ・自律心を養い規範意識を高め、健康でたくましい生徒を育てる。
 - ・自他を思いやる心を育み、自尊感情を高める。
- 「明朗・温雅・自律・友愛」を信条とし、
明るくおおらかで、自らを律し正しく行動できる生徒を育てる

チームで取り組む、誰一人取り残さない学校

地域、保護者等の協力を得ながら様々な体験活動等に積極的に取り組むとともに、安全安心な学校生活をおくれるようきめ細かな指導を進めてきた結果、一定落ち着いて学習できる環境が整いつつある。

学力・体力の向上に向けて、ICT機器の活用、キャリア教育の充実や授業改善に向けた研究、研修等の取り組みを進めているが、生徒アンケートの「宿題や授業の復習など家で学習している」の肯定的な回答割合が低く、学習の定着がなかなか図れていない状況にある。主体的、対話的深い学びにむけて授業改善を進めるとともに、家庭学習用の課題設定の工夫等学習習慣の定着に向けた取り組みを進める必要がある。

生徒・保護者アンケートの肯定的な回答は年々上昇しているが、生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」、「自分にはよいところがあると思う」の肯定的な回答割合が低いので重点的に取り組む。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」の肯定回答を80%以上にする。
- 生徒アンケートの「学校のきまり・規則を守っている」の肯定回答を90%以上にする。
- 生徒アンケートの「自分にはよいところがあると思う」の肯定回答を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 全国学力・学習状況調査の平均正答率を大阪市平均以上とする。
- 生徒アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定回答を80%以上にする。
- 生徒アンケートの「宿題や授業の復習など、家で学習している」の肯定回答を70%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点を市平均以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 生徒アンケートの「ICT機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答を90%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- 生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」の肯定回答を80%以上にする。
- 生徒アンケートの「道徳や人権教育を通じて、命を大切に思う心や互いを思いやる心を育てることができている」の肯定回答を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を45%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。

学校の年度目標

- 生徒アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定回答を80%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点を市平均以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（中学校）

- 学習者用端末の活用を週3日以上実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。

学校の年度目標

- 生徒アンケートの「ICT機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

不登校については、こども相談センターや区子育て支援室、スクールカウンセラー等と連携を密に、サテライトや大阪市教育支援センターの活用なども進めた。また、月1回の「いじめ・不登校対策委員会」で不登校生徒の現状について情報共有し、それぞれに合ったアプローチの仕方を検討していく中で、学校に足が向き始める生徒も出てきた。今後も家庭との連携を密にとるとともに、早期にチームで対応することを進めていきたい。

防災の取り組みについては、校内の取り組みにおいて地震・火災・津波にまつわる訓練を2回行った。また、地域・関係機関等と連携し、防災訓練を実施する計画を進めていたが、今年度もコロナ禍で実施できなかった。しかしながら、中学生は、地域防災の重要な戦力として頼りにされていることから、地域の訓練に参加できる状況になった際には、生徒会や部活動の生徒を中心に参加を促し、防災への意識を向上させるとともに、地域の重要な存在であることを体感させ、生徒の達成感、自尊感情の向上につなげたい。

キャリア体験学習については、漸く職場体験を実施することができ、「生き方学習」を通して、働くことへの意識の向上、将来を考えるきっかけづくりを進めることができた。

授業や総合の時間等に図書館を積極的に活用した。また今年度は、昼休みや放課後の時間帯に毎日開館し、図書の貸し借りや学習会などを実施することで、本に親しむ機会を向上させ、活字に触れる機会を増やすことができた。

年度当初の子ども理解研修、学期ごとの特別支援委員会での個別の教育支援計画や指導計画についての検討会を通して、インクルーシブ教育の推進を図った。今後も、生徒・保護者にも理解と啓発の取り組みを進める必要がある。

道徳において、道徳授業研修、評価研修に取り組んでいるが、道徳及び人権教育における今日的課題の解決を通じて、子どもたちが自己や他者の大切さを尊重することができるよう、今年度表面化した課題の解決に向け、年間指導計画の検討、研究を更に進めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

授業においては、スクールアドバイザーによる授業改善の指導と振り返りを定期的に行なった。また、若手中心の研修会を行い、若手教員が意見交流し中堅教員がアドバイスすることで、若手の育成にも取り組んだ。

チャレンジテストについては、成果がみられる面もあるが、全体としての数値目標の達成には至らず、学力の二極化が顕著になっている。今後も対策プリントを活用するなど工夫が必要である。

体力面においては、男女とも大阪市平均、全国平均を上回ることができた。運動能力・体力の向上は勿論のこと、運動を愛好する心情を養う取り組みを進めていきたい。

また、自らの健康管理について、治癒率のアップや自己管理能力の向上をめざす。保健委員会や学校保健委員会の取り組みを更に充実させ、自己の健康に対して興味・関心を持てるよう、取り組みを工夫していく。

【学びを支える教育環境の充実】

昨年度に引き続き、学力向上委員会を中心に、『主体的・対話的・深い学び』に資する活動』、『ICT機器の効果的活用』を重点目標に、全教職員の研究授業を実施し、授業改善の取り組みを進めた。特に『ICT機器の効果的活用』という面では、昨年度よりも積極的に活用する教員が増え、生徒アンケートの「パソコンなどの情報機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答の割合が85%と高い数値であった。引き続き、『ICT機器の効果的活用』に取り組んでいく。

大阪市立摂陽中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」の肯定回答を80%以上にする。</p> <p>○生徒アンケートの「道徳や人権教育を通じて、命を大切に思う心や互いを思いやる心を育てることができている」の肯定回答を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>日常の見守り、声掛けを丁寧に行うとともに、教育相談を通して生徒理解を深め、問題の未然防止、早期発見、早期対応に努める。</p> <p>指標 教育相談を年間2回以上、いじめや被害等のアンケートを各学期に実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>規律正しい学校生活を送ることや社会のルールを守る態度の育成を図る。</p> <p>指標 生徒指導研修会を行い指導についての共通理解を図り、組織的に取り組む。また週1回の学年集会等において平素より規範意識を高める取り組みを進める。生徒アンケート「学校のきまり・規則を守っている」の肯定回答を90%以上にする。</p>	B

<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 「元気なあいさつ」「きちんとした身だしなみ」を日常的に全教職員で指導する。</p> <p>指標 全教職員で登校指導に取り組む。 生徒アンケート「あいさつをしようと心がけている」の肯定回答を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 警察等関係機関と連携し、問題行動の未然防止に努める。</p> <p>指標 生活安全教室を全学年夏休み前に実施する。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 不登校生徒への組織的な取り組み体制を充実し、関係諸機関との連携を密にし、不登校生の減少に努める。</p> <p>指標 週1回の主任会で状況把握、共通理解を図るとともに、月1回の「いじめ不登校対策委員会」を中心に取り組みを進める。</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 防災計画を作成し、防災教室や避難訓練を行い、災害に対し適切な対処ができるようにする。</p> <p>指標 地震・津波・火災を想定した避難訓練を年2回以上実施する。 生徒アンケート「地震や火災など防災の学習に取り組んでいる」の肯定回答を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑦【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 施設、設備の整備、緑化に努め安全な環境づくりを進める。</p> <p>指標 学期に1回の破損調査や日々の点検を推進し、校内の施設が整備されている状態を保つ。</p>	B
<p>取組内容⑧【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 全生徒で日々の清掃・大清掃を行い、美化活動を推進する。</p> <p>指標 生徒アンケートの「清掃はみんなと協力して学校の美化に努めている」を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑨【基本的な方向2 豊かな心の育成】 「道徳」の年間指導計画に基づき授業の充実を図るとともに、全教育活動に関連付けて取り組む。 式典や学校行事の充実をはかり、取り組みを通して、豊かな人間性と道徳性を高めて自尊感情を向上させる。</p> <p>指標 道徳の研究授業に取り組むとともに、実践データの収集整理に努める。 生徒アンケート「学年行事や学校行事に、積極的に取り組んでいる」の肯定回答を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑩【基本的な方向2 豊かな心の育成】 社会的・職業的自立に向け、発達段階に応じたキャリア教育に体系的・系統的に取り組む、職業観・勤労観を育成する。</p> <p>指標 職場体験、職業講話、修学旅行、大阪フィールドワークなどの体験学習を実施し、事前・事後学習を含め充実した取り組みとする。 生徒アンケート「進路学習、職場体験学習、キャリア体験学習などで将来の夢や希望について考えることができた」の肯定回答を70%以上にする。</p>	B

<p>取組内容⑪【基本的な方向2 豊かな心の育成】 進路情報の収集、情報発信、情報共有を進め、進路指導の充実を図る。</p>	B
<p>指標 「進路の手引き」を年間2回発行し、進路説明会を年間2回実施する。</p>	
<p>取組内容⑫【基本的な方向2 豊かな心の育成】 平和教育・障がい者教育・外国人教育・性教育等の取り組みを進め、生徒の人権意識を高める。</p>	B
<p>指標 平和教育、性教育等の講演会をそれぞれ年1回実施し、教職員対象の人権教育研修会を年1回行う。</p>	
<p>取組内容⑬【基本的な方向2 豊かな心の育成】 校内委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターを中心に全教職員による共通理解のもと、インクルーシブ教育を推進する。</p>	B
<p>指標 拡大特別支援委員会を設定し、「個別の指導計画」の評価、見直し等を進めるとともに支援について検討し、共通理解、実践につなげる。また、基礎的環境整備に努め合理的配慮に基づく授業支援を行うため、年に1回以上教員研修会を設定する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 日程の関係で、教育相談を1回しかできなかったが、被害調査は各学期に1度、いじめアンケートはそれぞれの学期末に実施できた。</p> <p>② 4月に生徒指導研修会を行い、生徒指導についての教職員間の共通理解を図り、組織的に取り組み、校則の変更も行った。</p> <p>③ 毎朝の登校指導を行い、挨拶、身だしなみについて注意喚起を行い、生徒の意識が高まりつつある。生徒アンケートの結果は、89パーセントであったが、多くの生徒が正門、校内でも挨拶をしてことが見受けられる。</p> <p>④ 今年度、1学期末に全学年を対象に生活安全教室を行い、夏季休業中も大きな事故なく過ごさせることができた。</p> <p>⑤ いじめ・不登校に対し、毎月1回いじめ・不登校対策委員会を実施し、生徒の状況に関して共通理解を図り、関係諸機関と連携を取りながら、不登校の改善を行っている。</p> <p>⑥ アンケート項目の全体平均は82%であった。3年のみ90%であった。</p> <p>⑦ 計画通り実施できた。</p> <p>⑧ アンケート項目の全体平均は86%であり、目標の70%を上回る数値であった。</p> <p>⑨ 「道徳」の年間指導計画に基づき授業の充実と実施を図るとともに、全教育活動に関連付けて取り組んだ。実践データや教訓の収集整理に努めた。</p> <p>⑩ キャリア教育を体系的・系統的に進めて、生徒の職業観・勤労観を育成するように努めた。</p> <p>⑪ 「進路の手引き」や「進路説明会」を通じて、進路の情報をわかりやすく発信できた。</p> <p>⑫ 平和教育を実施し、性教育について3、2、1年で実施した。生徒の人権意識を高めるよう努めた。</p>	

- ⑬ 年度はじめに研修会を設定し、生徒の情報や授業に必要な支援について共有できた。個別の指導計画は各学期末に作成し、必要な支援は学年会や職員会議で周知している。

次年度への改善点

- ① 教育相談の機会にかかわらず、生徒の様子を多くの目で注視していく。教育相談の日程については、年間行事の予定に組み込むなどして、日程の調整をしていく。
- ② 4月の生徒指導研修会の内容を充実させ、全職員共通の認識のもと連携を取りながら生徒指導に取り組んでいく。職員会議等でも周知徹底していく。次年度は校則の変更の周知徹底を行う。
- ③ 次年度も登校指導をより多くの教職員で行い、生徒の情報交換を密に行っていく。
- ④ 次年度も引き続き、警察等関係諸機関と連携を深めながら新たな取り組みを模索していく。
- ⑤ 次年度も月1度のいじめ・不登校対策委員会の内容を充実させ、外部機関とも連携を取りながら不登校対策に取り組んでいく。
- ⑥ 学年が上がるごとに数値はよくなっている。回数を重ねて意識を高めるのではなく、毎回の訓練の重みや意識付けを重視したい。
- ⑦ 引き続き施設管理に努める。
- ⑧ 引き続き、各清掃場所の担当者設定や点検、管理に努める。
- ⑨ 引き続き道徳授業の充実に努めるとともに、実践データや教訓の収集整理に努めていく。
- ⑩ キャリア教育を体系的・系統的に進めて、生徒の職業観・勤労観を育成する機会を作りたい。
- ⑪ 来年度も「進路の手引き」や「進路説明会」を通じて、進路の情報をわかりやすく発信する。
- ⑫ 生徒の状況や社会状況に応じた平和教育・障がい者教育・外国人教育・性教育等の人権教育を今後も充実させていく。
- ⑬ 今後も引き続き、支援担当の打ち合わせや学年会・職員会議を通じて支援方法の改善点を協議・周知する。また、支援する上で必要な知識を研修会等で発信していく。

大阪市立摂陽中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を45%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○生徒アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定回答を80%以上にする。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点を市平均以上とする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>習熟度別少人数指導など、個に応じたきめ細かな指導を実施し、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>指標 習熟度別少人数授業に関する生徒アンケートで「授業がわかる」とする旨の回答割合について、実施前後の差を3%にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学習・指導方法の改善を図る。</p> <p>指標 全教員研究授業に取り組み、成果の共有、授業改善を進める。</p> <p>生徒アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>教職員と地域指導員が連携して、放課後等を活用した自主学習会を実施する。</p> <p>指標 放課後の自主学習会に参加する生徒を前年度より増やす。</p>	B

<p>取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 地域・保護者と連携を深め、地域人材の活用を積極的に進める。</p>	B
<p>指標 地域・保護者との協働による土曜授業「生き方学習」を実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 健康診断について共通理解を図り、適切な事後措置をとる。</p>	B
<p>指標 治療勧告や個別相談等により治療率の向上を図る。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 健康や食に対する興味・関心を高め、正しい知識を身に付けさせる。</p>	B
<p>指標 毎月1回「保健だより」「食育だより」を発行し、健康に関する啓発を行う。</p>	
<p>取組内容⑦【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 スポーツや運動に親しむ機会を設け、体力運動能力の向上を図る。</p>	B
<p>指標 体育大会はじめ、マラソン大会、球技大会等、体育的行事や部活動の充実を図る。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 国語、数学、理科、英語において実施した。 ② 全教職員を対象に11月を相互参観の月間とし、研究授業を行った。 ③ 長期休業中も含め、放課後学習室の実施回数を増やすことができた。 ④ 12月の土曜授業で、PTAや地域の方々と連携し、2年生において「生き方学習」を実施することができた。 ⑤ 1学期末懇談時に結果を配付し、2学期末の懇談では未受診者に再度お知らせを配付し受診を勧めた。現在の全体の受診率は38%と低い。が、歯科は昨年より2%上がった。 ⑥ 季節や現状に則した内容で情報発信をした。 ⑦ 体育大会では、コロナ渦の中、全学年で行う行進を含めて全プログラムを予定通り行うことができた。3月に行うマラソン大会でも体育委員を中心にクラスで団結し、生徒自ら進んで運動に取り組ませることで、体力の向上につなげていきたい。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>① 引き続き個に応じたきめ細やかな指導の工夫を行っていく。 ② ICT機器を用いた授業にも重点をおき、全教職員研究授業に取り組む。主体的・対話的で深い学び」を組み込んだ授業展開の工夫を普段の授業中から活用できるようにしていく。 ③ テスト前の利用者数は多くなっているが、それ以外の日はまだ利用者数が少ないので来年度は、さらに多くの生徒の参加を勧めていく。 ④ 来年度も引き続き「生き方学習」を実施していきたい。 ⑤ 健診後の事後措置を適切に行う。また、早期に受診が必要な生徒については、個別に生徒、保護者にアプローチを行い受診を促すよう努める。 ⑥ 生徒、保護者がより興味や関心を示すよう、現状に適した情報を発信し、健康なからだづくりの啓発に努める。 ⑦ コロナ禍での体育的行事の行い方を工夫し、実施内容や実施時期の検討をしていきたい。</p>	

大阪市立摂陽中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <p>○学習者用端末の活用を週3日以上実施する。</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○生徒アンケートの「ICT機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>ICT機器の整備を進め、使いやすい環境を整える。</p> <p>ICTを活用した授業に取り組み、基礎・基本の定着、学習意欲の向上を図る。</p> <p>指標 『主体的・協働的学びの授業づくり』『ICT機器を取り入れた授業づくり』を重点目標として、全教職員による研究授業に取り組み。</p> <p>生徒アンケートの「ICT機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>働き方改革を進め、個々の力量が発揮できて、協働してつくる学校をめざす。</p> <p>指標 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>読書タイムの充実を図るとともに図書館の効果的な活用を進める。</p> <p>指標 図書館の昼開館の利用人数を昨年度利用人数(令和3年度は、1252人)以上にする。また、貸出冊数も昨年度(681冊)以上にする。放課後の開館は、学習会をするなどして毎日できるようにする。</p> <p>朝の読書活動ができるように学級文庫を整備し、「平野区読書ノート」の活用に取り組み。調べ学習や読書活動など授業での活用を進める。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>家庭や地域、小学校との連携を深める。</p> <p>指標 ホームページや学校だよりなどを充実させ、積極的に情報発信する。また、小中生活指導連携会議の学期に1回実施、合同研修の開催など、小中での共通した取り組みを進める。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 『主体的・協働的学びの授業づくり』『ICT 機器を取り入れた授業づくり』の指標を重点目標として、全教職員による研究授業に取り組んだ。しかし、生徒アンケートの「ICT 機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答が目標よりも5%下回っていたため、次年度は90%を上回るようにしていく。
- ② 12月末時点で、基準2を満たす教員の割合は75.68%で、昨年より10ポイント上回った。
- ③ 1月末までの利用者数は494人、貸出冊数は312冊であり、昨年を下回ってしまったが、昨年提出者が0名だった「平野区読書ノート」の提出者が今年度は3名あった。
- ④ 小中連携会議を学期に1回行っている。また、小中部活動体験のために密に連絡を取り合うことができた。現在は新年度のクラス編成について連絡を取り合っている。

次年度への改善点

- ① 生徒アンケートの結果を受けて、さらに『ICT 機器を取り入れた授業づくり』を推進し、肯定回答を90%を上回るようにしていく。
- ② 時間外勤務時間80時間超の教員が複数いるので、減らせるよう促していく。
- ③ 今年度同様、文化委員に本の紹介をしてもらうなどして、図書室の利用を呼び掛けていく。
- ④ 小中生活指導連携会議を軸に、児童・生徒の交流についても実施可能な取り組みを探っていく。

令和4年度 学校関係者評価報告書

大阪市立摂陽中学校 学校協議会

1 総括についての評価

学校の評価は概ね妥当である。

コロナ禍で様々な制限がかかる中、試行錯誤しながら学習活動に取り組んでいる。修学旅行や職場体験学習など学校行事では、コロナ禍前と同様に実施し、子どもたちが達成感を得、社会的自立に向けた取り組みができています。今後も、地域と学校が連携した取り組みを期待したい。

課題となっている学力面では、数値的な向上が表れてはいませんが、ICT機器の活用等、改善に向けた取り組みが進められている。学校における学習だけでなく、家庭学習習慣の定着に向け、家庭の協力を得るための啓蒙も必要である。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- 生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」の肯定回答を80%以上にする。
- 生徒アンケートの「道徳や人権教育を通じて、命を大切に思う心や互いを思いやる心を育てることができている」の肯定回答を90%以上にする。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を45%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。

学校の年度目標

- 生徒アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定回答を80%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点を市平均以上とする。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（中学校）

- 学習者用端末の活用を週3日以上実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。

学校の年度目標

- 生徒アンケートの「ICT機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答を90%以上にする。

【安全・安心な教育の推進】

- ・いじめ、不登校生徒への対応は今後も迅速かつ丁寧に行ってほしい。昨今問題視されているヤングケアラーについても早期発見、早期解決を期待する。
- ・例年、区役所・消防署・地域防災リーダーと実施している防災訓練は、今年についても実施できなかったが、学校独自で火災訓練、地震・津波訓練を実施した。日中、大人は働きに出ており、地域ではお年寄りが中心となるなか、中学生が地域の大きな力となることが体感できるよう、取り組みを進めることができている。
- ・キャリア体験学習として職場体験学習や「生き方学習」では、勤労観を培うべく、個々の生徒の成長を考えながら実施され、PTA、保護者、地域との連携ができている。
- ・図書館活動や放課後学習会など、図書館補助員・学校元気アップ・学校力アップコレクター・学びサポーターの力をお借りして活発化させ、より多くの生徒が自学自習できるよう今後も推進していく必要がある。
- ・スマートフォンの利用について、トラブルでの加害者にも被害者にもならないために、情報モラルに関する家庭内でのルールづくりが望まれる。
- ・コロナ禍という災害に見舞われ従来の在り方が変化した。学校本来の役割である集団生活や集団行動を通して、生徒たちの成長につなげていってほしい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・チャレンジテストの結果を見ると、学力面においてまだまだ課題は多いが、大阪市英語力調査では「書くこと」では市平均を上回るなど、少しずつ改善が見られる教科もある。授業において、生徒の間で話し合う活動を積極的に取り入れていることも効果が出ている。
- ・宿題や小テストなど各教科に工夫は見られるが、学習会への参加数は多いとは言えず、家庭学習の習慣も定着していない。スマホに充てる時間が長くなりがちだが、その時間を復習等に充てるよう、保護者への協力をもっと働き掛ける必要がある。
- ・体力面については、昨年度に引き続き、大阪市平均を上回った。コロナ禍で行動制限される中、生徒たちの運動能力が向上しているのは非常に喜ばしい。
- ・生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」の項目で、肯定回答の割合が低い。学年に差があるとはいえ、自己肯定感の醸成などが今後の課題である。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・タブレット端末などICT機器を活用した授業が活発化し、生徒たちにとって魅力ある授業が展開されていると生徒アンケートの結果から推察できる。一過性にならないよう今後も継続していってほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・先生方と生徒たちとの信頼関係が築けており、それが学校全体の良い雰囲気につながっている。
- ・放課後学習会はさらに充実させて、学習習慣が定着する工夫をお願いします。
- ・携帯電話、スマホなどのインターネットの活用について、情報モラル教育を引き続き充実させてほしい。
- ・道徳教育など、規範意識の向上に努めてほしい。また、授業規律等授業に向かう姿勢、家庭学習については、家庭と十分連携するとともに、啓発に努めてほしい。
- ・防災について、中学生が地域に積極的に出ていき、頼られる存在として成長させる取り組みをお願いします。
- ・特別支援教育に関しても、研修などを定期的実施して、子ども理解の取り組みを継続してほしい。
- ・平ちゃん読書ノートの活用など、読書活動を更に充実させてほしい。
- ・部活動について、より効率的な指導方法の研究を進め、生徒の主体的活動、先生方の負担軽減を考えつつ、達成感が得られる工夫もお願いします。